

統合医療を支援するためのデザインとシステムの調査

概要

近年、わが国の医療現場や生活環境の中で、予防医学や補完・代替医療を含む統合医療への関心が高まっています。

その中で、統合医療の考え方が、実社会においてさらに普及していくためには、一般の人が、この内容を正しく理解し、共感できることが必要です。そのためには、わかりやすく具現化することが重要で、統合医療の診療方法やそれをサポートするための機器や装置を含め、デザインとシステムによる支援が必要であると考えます。

そこで、当センターでは、統合医療の普及啓発も考え、京都府立医科大学の今西二郎教授とともに19年度は、統合医療の考えを取り入れた施設の調査と関連する企業へ統合医療の関心についてヒアリングを実施、20年度については、その成果を踏まえ統合医療に関心の高い企業に呼びかけ研究会を実施し、産業化をテーマに、「睡眠の計測」、「温浴」、「香り」等の具体事例について調査研究を行いました。

睡眠の計測

睡眠は、健康において重要な要素であり、図1のように健常者では、睡眠中に該当する水色部分は、ほとんど体に動きがなく休息が取れているが、図2のように認知症の場合は、水色部

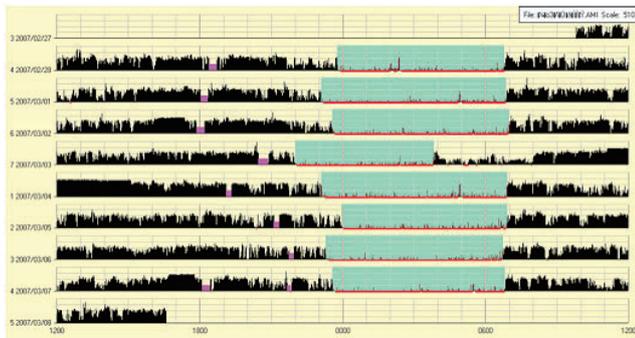


図1 健常者の場合—睡眠時においては、ほとんど体の動きがない。休息状態。

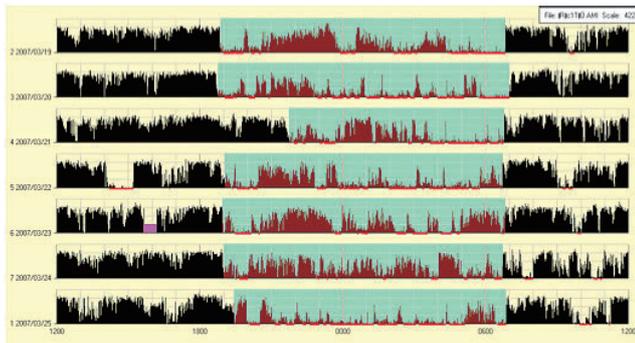


図2 認知症の場合—睡眠時においても、体の動きがあり休息がきちんととされていない。

分も動きがあり休息がとれていないなどの事例から感覚的な情報を見える化することができました。統合医療を行ううえで、客観的に見える化することが重要であることを認識しました。

温浴について

温浴には、疲労回復、血行促進、リラクゼーション効果があります。さらに、入浴剤を利用すると、硫酸ナトリウム、硫酸マグネシウム等の無機塩類が皮膚のタンパク質と結合しベールをつくり保温効果を高めたりすること等が医学的にも明らかになっています。

このような効果を促進するための「商品」の開発について研究会企業から事例発表してもらいました。

「お湯による快適生活」の提案を目指し、浴槽設備もリラクゼーションの観点から開発に注力し、香りに着目したバスライトとしてアロマライトはすでに商品化しているほか、快適を高めるためにミストを発生することのできるシステムが新商品として開発が進んでいるとのことでした。



お風呂のあかりとアロマの香りで癒しの空間を作り出す、浴室照明システム

香りの応用例について

アロマセラピーという香りを利用したセラピーがあります。香りの製造は、計測技術の進歩によりかなり科学的になってきています。古くから産業化されており、医学的な要素もありますが、嗜好的な要素もかなり強いもので、高価なものは精油が1000万円/kgのものもあります。香りを産業的にみるとたとえば洗剤の場合コストの約1割は香りのコストです。無香料のほうがよいが、化粧品や衛生用品においては、香りが売上そのものに影響を与えているとのことであり、人がイメージや印象を持ちやすい要素であり重要です。

【お問い合わせ先】

京都府中小企業技術センター
けいはんな分室

TEL : 0774-95-5027 FAX : 0774-98-2202
E-mail : keihanna@mtc.pref.kyoto.lg.jp